

TEACHING ENGLISH NOW

英語教師のための情報誌



特集 物語教材を使った指導

特集

巻頭エッセイ スポーツ心理学と英語	荒木香織	01
英語教育と物語教材	高橋貞雄	02
Reading 教材を扱った 4 技能統合型授業	石川剛・吉田晴世	04
“Alice and Humpty Dumpty” —ことばの「掛け合い」・「社会性」・「身体化」—	田嶋美砂子	06
会話文のみで展開される物語の指導—A Pot of Poison の指導を通して—	枝迫香菜	08
4 技能を高める Let's Read の効果的な指導	鈴木 悟	10

連載

英語教師のための基礎講座		
授業は「導入」で決まる	重松 靖	12
評価クリニック テスト統計の哲学	根岸雅史	14
小学校英語 Just Now		
外国語活動におけるチャンツ指導		
—小・中学校の英語教育の接続を視野に入れて—	箱崎雄子	16
授業レポート		
Project を活用した授業実践例 (2)		
—中学 2 年：英作文とスピーチの指導「自分の夢を紹介しよう」を通して	谷口友隆	18
単語の文化的意味 92 change	森住 衛	21
Essay Words Relationships	Concha Moreno García	22
編集部からのお知らせ NEW CROWN ENGLISH SERIES 訂正のご案内		23

Vol.35

AROUND THE WORLD オーストラリア先住民の世界から [1]	松山利夫	表紙裏
表紙写真について チェンマイのエコツーリズム	峰岸真琴	表紙裏

SPRING 2017
SANSEIDO



ウールルーの歴史と神話

オーストラリア先住民アボリジナルの人たちは、イギリス人をはじめとする入植者との戦いのなかで、固有の歴史を刻んできた。そのひとつの象徴として、世界的な観光地のウールルー（またはウルル）をとりあげよう。

ウールルーの歴史 ウールルーは、1870年代初めウイリアム・ゴスによって、エアーズ・ロックと命名された。1920年ごろ、カタ・チュタ（オルガ山）を含むこの地域がアボリジナルの居住区（リザーブ）に指定される。先住民たちは政府任命のアボリジナル保護官の統制下におかれ、中央砂漠地域における同化政策の拠点のひとつになった。1940年代には、アリス・スプリングズからの自動車道路が開通し、ウールルーへ観光客をひきつけた。そして1958年、ウールルーとカタ・チュタはリザーブから切り離され、国立公園に指定される。1970年代に、この地域の先住民アボリジナルの諸集団は、祖先が暮らしてきた自らの土地の「土地権」確認の訴訟をおこした。79年にはその「土地権」が承認され、85年からは「ウールルー・カタ・チュタ土地信託組合」の管理となった。

このころの観光客数は年間25万人ほどになっていた。それが1987年12月にはユネスコの世界自然遺産に登録され、94年には複合遺産として再登録されたのである。

1991年には、先住民アボリジナルの諸集団の利害、および国立公園の遺産価値の保存を目的に「マネージメント計画」が策定され、岩山の麓のホテルが一掃されて

ユララ・リゾートが建設されることになった。このとき、エアーズ・ロックはウールルーへとその名前を変えたのである。自らの言語にもとづく地名を回復したこの地域の先住民は、再び生き生きと神話を語り始めた。

ウールルーの神話 ウールルーには先住民の民族移動を思わせる神話が語り伝えられてきた。岩山の北側斜面の麓には「ワラビー・マラの物語」がある。はるか遠くの北の土地から旅をしてきたマラの一団は、ウールルーに着くと男女に分かれてキャンプをした。そこへ西に住む集団から儀礼への誘いをうけるが、長旅で疲れていたマラは、これを断った。怒った西の人びとは、ディンゴに似た悪魔の精霊マヌにキャンプを襲わせる。驚いたマラの人びとは、ばらばらになって南に逃れたという。

岩山の南側には「ニジヘビ・クニャの物語」がある。クニャのグループは、北と南、そして西からウールルーの岩陰にある神聖な泉に集まってきた。彼らが泉のそばでキャンプをしていると、毒蛇のリルは泉を奪おうと、クニャたちを襲って戦いを挑んできた。激しい戦闘の末にクニャたちはリルを撃退し、いまでも岩陰に水をたたえるムティチュルの泉に住み続けている。

これら2つの神話は、中央砂漠地域における古い時代の先住民の民族移動を伝えているように読めるが、どうだろう。そんな歴史を背景に、ウールルーには先住民文化に触れようとする世界の観光客が今日も訪れている。

表紙写真
について

チェンマイのエコツーリズム

峰岸真琴 Minegishi Makoto (東京外国語大学)

雨季が明けて涼しくなる11月のタイは観光シーズンに入る。「北タイの古都」、チェンマイでは、お寺巡りとナイトバザールでのショッピングが日本人の観光の定番である。一方、タイ人の間では、お寺参りを兼ねた観光が盛んである。バンコクの寺院よりも建立年代が古く、由緒のある北タイの名刹にお参りしては、お金や供物をささげ、現世の御利益や厄除け、さらにより良い来世を祈願するのは日本と同様である。

ところで、最近ではタイでも「体験型観光」がはやり始めている。写真

は、チェンマイの中心部から車で1時間ほどの郊外の山にあるキャンプ場である。寝袋を持たずに行っても、テントやバンガローに気楽に宿泊ができる。バンガローにはそれぞれキッチンやシャワールームも備わっているし、併設のカフェや大きなレストランも利用できる。

チェンマイの山岳地域では、比較的涼しくて寒暖の差が大きい気候を活かし、さまざまな換金性の高い農作物が栽培されるようになった。王室が主導するプロジェクトの支援もあって、ケシに代わりコーヒー豆や高



原野菜が作られるようになり、最近ではアボカドの栽培も始まった。山地民族の作る民芸品のデザインが洗練されてきたのは、買い物好きの観光客には朗報である。ほかにも観光客にはイチゴ狩り体験も人気である。

平坦なバンコク育ちのタイ人は、苦勞して山に登るのは苦手だが、バスや自家用車を使って手軽に自然に親しむことができるエコツーリズムは彼らにも大人気で、2016年から2017年の冬シーズンは、もう宿泊予約で埋まっているとのことだった。



スポーツ心理学と英語

荒木香織 Araki Kaori, Ph.D.

2012年から2015年までの4シーズンにわたりラグビー日本代表メンタルコーチとして、選手のメンタル面の強化に取り組みました。選手は勝利のメンタリティを身に付け、2015年のワールドカップイングランド大会で数々の快挙を成し遂げました。

選手に提供するメンタル強化のためのトレーニングの基盤はスポーツ心理学 (sport and exercise psychology) です。アメリカで修士課程及び博士課程を修了するために、約7年にわたり勉強をしました。スポーツ心理学の最新情報を得るには論文を読むことや世界中の研究者と連絡を取り合うことが含まれますが、どちらの場合も使用言語は英語です。

心を鍛えるためには、コーチと常に相談しながら、チームや選手の課題を明確にしていくことが大切です。日本代表のヘッドコーチを務めたエディ・ジョーンズ氏はオーストラリア人ですから、英語でコミュニケーションを取る必要がありました。ジョーンズ氏は「通訳を介さず英語を操れるスポーツ心理学の専門家」をメンタルコーチとして招聘したかったようです。人の心理に関することを通訳する過程において、誤解がおきやすいからでしょう。

また、日本代表の選手の中には、日本生まれであっても、日本以外の国の生まれであっても、英語を使用する選手たちがいました。ですから、英語と日本語の両方を使用しながら、メンタルのトレーニングを進めていく必要がありました。心理学を英語でも日本語でも理解していることは、チームや選手のメンタル強化には必要でした。

メンタルのトレーニングを進めていく過程では、スポーツ心理学で提唱されている理論やアプローチなどを積極的にコーチや選手に紹介しました。そのうえで、大切にすることは、英語を無理に日本語に訳さないことです。たとえば、スポーツ心理学では「成功はハードワークとレジリエンスにより経験できる」と提唱する研究者キャロル・ドゥエック氏の

考えを応用します。選手は「ハードワーク」の意味をあまりよく知りませんから、その内容について説明し、理解を進めることになります。「ミスを失敗と捉えることなく、経験として捉え練習に取り組む。できないから努力するのではなく、できるようになるために努力する。質問はできないことを露呈するのではなく、有能になるための過程と捉える。」といった姿勢で精一杯ラグビーに取り組むことをハードワークとして伝えます。ハードワークを日本語に端的に訳してしまうと「一生懸命取り組む」などとなりがちですが、それでは本来の意味を失ってしまう恐れがあります。

「レジリエンス」も同様です。「抵抗力」「復元力」と直訳されがちですが、選手にとってわかりやすい表現とは限りません。ですから、「挑戦にうまく取り組むチカラ」または、「困難を乗り越えるチカラ」をつけましょうといった説明をし、それと同時にそのチカラをつけるトレーニングをします。

従来は心理学について十分理解することなく、英語を日本語に直訳することで情報が広まってきたから、中には正確性を欠く表現も多々あったのではないかと思います。ですが、私はスポーツ心理学について英語で十分に理解を進めた上で、日本語でその情報をコーチや選手に提供する仕事を続けています。

これからも、コーチや選手のパフォーマンスの維持、向上のため、最新の情報をもって教育、研究活動、そしてメンタルトレーニングのコンサルタントの活動を継続していきたいと思っています。

あらき かおり

園田学園女子大学教授。ノースカロライナ大学大学院グリーンズボロ校博士課程修了。専門はスポーツ・健康心理学。アメリカ・シンガポール・日本において教育、研究活動に従事するかたわら、メンタルトレーニングコンサルタントとして活動。

英語教育と物語教材

高橋 貞雄

(玉川大学名誉教授)

はじめに

義務教育における英語教育は、言語教育をとおして人間的成長に責任をもつことです。言語は社会生活において多様な使われ方をします。コミュニケーションの重要なツールであると同時に、思考や感性、認知の面で欠くことのできないものです。このことは教材編成にも反映されています。言語の使用場面や働きを分類してみると、テキストタイプという考えが見えてきます。たとえば、対話文、手紙文、メール、説明文、ディスカッション、スピーチなどです。これらはいずれも、現実の日常生活においてごく普通に見られるものです。こうしたさまざまなテキストタイプに取り組むことで、英語の総合的なコミュニケーション能力の育成が図られます。一方で、物語文にもいくつかのタイプが見られますが、一般論として言えば、仮想（フィクション）の世界を言語で描くという点が他と異なります。

では、なぜ英語の教材で物語を扱うのでしょうか。

「物語教材」を扱う意義

もし英語教育が、事実の記述や情報のやりとりだけのコミュニケーション能力の育成を目的にするならば、物語を教材で扱う必要はありません。物語は言語使用や言語生活の重要な一部であり、言語教育として欠くことのできないものだから教材でも扱うのです。

母語教育においても、乳幼児期に絵本から言語体験を始めます。ここでは、絵本をとおして現実と仮想の結びつきを学びます。重要なのは、言語が空想を体験させる力をもっているということです。これは子どもが成長しても同様です。物語をとおして、

人はさまざまな空想を体験し、喜んだり悲しんだりします。外国語で書かれた物語であっても、想像力を働かせたり登場人物に共感したりすることができます。むしろ外国語の物語であればこそ、母語で書かれた物語とは異なる新たな言語体験をすることが可能になるとも言えるでしょう。

また物語は、多くの場合、その物語が書かれた土地の文化を反映しています。外国の物語を読むことによって、自文化とは異なる新たな世界を体験することができます。

このように、物語は想像力や感性の育成、ひいては異文化理解教育といった点で、言語教育や人間教育の重要な役割を果たしていると言えるでしょう。*NEW CROWN* は、従来から *A Vulture and a Child* や *I Have a Dream* のような社会的な問題を扱ってきましたが、同時に多くの文学作品や映画なども扱ってきました。これは物語教材が、生徒の人間的な成長に資すると考えてきたからです。

テキストタイプに合わせた指導

教材にはさまざまなテキストタイプがあることについて述べました。ここで「物語」と一口に言っても、実はさまざまなタイプがあります。ここで物語の詳細な分類を試みることは本稿の趣旨に合わないため割愛するとして、物語のタイプをよく理解した上で指導していただくために大切だと思うことをいくつか書いておきたいと思います。

本特集では、以下の4作品を取り上げています。具体的な指導例については、その項を参照していただければと思います。

Alice and Humpty Dumpty (1年 Let's Read)

この作品は、ルイス・キャロルの『不思議の国の

アリス』と『鏡の国のアリス』をもとにしています。2つのアリスは、「ことば遊び」という典型的なイギリスの文化を反映していると言われます。ナンセンスなことばのやり取りや、英語が本来持っている軽妙なりズムなどが特徴です。いくつかの場面に切り取って、挿絵などを参考にしながらどのような展開になっているかを読み取らせるようにするとよいでしょう。また、アリスとハンプティ・ダンプティのやり取りはどこがかみ合わないのか、ハンプティ・ダンプティはアリスの歌がなぜ嫌いなのか考えさせるようにします。この作品では、音読で英語のリズムを体感するような指導にも心がけましょう。

The Tale of Peter Rabbit (2年 Lesson 2 USE Read)

イギリスの代表的な児童文学作品と言われています。典型的な物語とも言えるもので、展開が時系列で描かれています。読みの基本はその時系列を整理することです。4人きょうだいの中でのやんちゃなピーターの位置づけ、母親の優しさなどが読み取れるとよいでしょう。ピーターや母親に感情移入して、どのような気持ちかを語らせてみるのも1つの方法です。

A Pot of Poison (2年 Let's Read 1)

この作品は狂言の『附子』をもとにしています。テキストタイプは「台本」です。したがって、ここでは台本を読むことが基本的な読みの活動になります。また、この作品は日本の物語なので、日本の作品を英語で読んでみるということにも特徴があります。「一休さん」などでもなじみの子どもとんちがテーマです。3人の小僧さんの性格や、一番悪知恵をはたらかせるのは誰かなども、深い読みでは課題にしたいものです。また、台本なのでグループをつくって演じることに挑戦したいものです。

Dolphin Tale (3年 Let's Read 1)

アメリカで公開された映画 *Dolphin Tale* をもとにした作品です。本来映画として鑑賞するものですが、わずか4ページの物語にしても楽しむことができます。傷ついたイルカと寂しい思いをしている少年の交流、動物愛護、家族のあり方などがテーマです。ここではまず、物語の展開を時系列で整理してみましょう。イルカはなぜ傷ついたのか、イルカと少年はどうして交流が可能になったのか、それぞ

れが互いをどのように思ったのか、また少年の母親は少年をどのように思い、接したのかなど、映画ならではの醍醐味に思いを巡らせることができるような指導が求められます。

物語の背景やタイプはさまざまですが、共通して言えることがあります。それは、内容の理解と文法指導や語彙指導を同時に行わないということです。どの作品にも新出の文法はありません。内容を読み取るときには、読むことに専念させましょう。文法指導が必要な場合には、読みの前後に別の時間を設けて指導しましょう。そうしないと読みの楽しさが半減してしまいます。

鑑賞力の育成と表現力の育成

物語教材の主たるねらいは、鑑賞力を育てることです。既習の文法や語彙を活用して、物語の展開や登場人物の心情を読み解き、読み手の言語力や感性を磨きます。

一方、物語は表現力を育成する教材としての活用も期待されます。たとえば、映画などの教材では冗長な部分を簡略して編集していますので、前後のつながりが粗くなっていることも考えられます。その場合には生徒に考えさせて、文や語句を自由に付け加えさせるという活動もおもしろいでしょう。

もう1つは「表現読み」の活用です。内容をよく解釈して、それを反映した音読を実践するというものです。筆者は、英語科指導法の授業で物語のレシテーションを課題にしました。その際によく用いたのが *Zorba's Promise* (2年 Further Reading) です。油にまみれたカモメの母親がどのような思いで卵を託したのか、また、カモメの雛が初めて塔の上から飛び立つときの“*I can't.*”はどのような心情かをよく理解して、それを自分の声で表現することが課題です。文章にのせられた気持ちを汲まずに音読しても、聞き手には届かないということを学生に理解してほしいのです。

最後に、*Zorba* が幼いカモメに“*You can if you want.*”と語りかけます。これは生徒一人ひとりへのメッセージでもあります。この1文を個々の生徒がどのように解釈するか、物語教材の良さはこんなところにも隠されています。

Reading教材を扱った4技能統合型授業 ～実践的コミュニケーション能力を育む視点から～

石川 剛・吉田晴世

(大阪教育大学附属池田中学校・大阪教育大学)

はじめに

グローバル化が急速に進展する現在、国際共通語である英語力の向上、とりわけ相手と英語を使って交渉ができるような高度な能力の育成が求められています。大阪教育大学附属池田中学校におきましては、グローバル人材を育成するという視点のもと、4技能を総合的に育成し、社会で必要な実践的コミュニケーション能力を育むことを念頭に指導しています。また、年に数回研究授業を行い、大学教授とともに附属独自の研究開発をしています。本稿では、特に物語教材を通してoutput活動につなげる指導の一部を第2学年で扱うLesson2“Peter Rabbit”の単元を例に紹介します。

本単元のねらい

“The Tale of Peter Rabbit”は世界中で愛されているイギリスの児童文学です。本単元ではこのような海外でも親しまれているauthenticなものに触れることができ、“Peter Rabbit”の物語を通して外国文化およびその歴史的背景や著者のねらいなどに興味を持たせることも可能です。

絵本はもちろん、その他の物語教材においても読者の理解を助けるために絵や写真がよく使われます。このような視覚情報を適切に読み取ることは原作者の意図や内容を正確に理解するために必要な能力です。そこで本単元では、生徒が絵を使って場面を適切に描写できるようになることをねらいとした指導を行います。また、総括的評価課題では自分たちで物語を作成し、その物語を4枚の絵とともに伝える“Story Making”を実施します。生徒たちは物語の起承転結を理解し、それぞれの場面を表す絵

を用いてオリジナルの物語を伝えます。

授業の流れ

帯活動(L, S) ※()内は使用する技能を表す。

picture descriptionをペアで行います。生徒はそれぞれ、教師があらかじめ用意した日常生活の一場面などの写真を見て、即興でその写真を描写したり、写真に関する物語を作成します。また内容に関する3つの質問(例:What was he doing?, Why did he practice it?)を作り、ペアの生徒に伝えます。この活動では見た情報を適切に伝えることと、その背景などを自由に想像して伝えられるようになることを目的としています。このような活動を通して生徒の創造性を育みます。

オーラルイントロダクション(L, S)

教科書のGETで学んだことを中心に、題材に関する背景や簡単な内容の紹介、「この題材をこれまでに見たことや読んだことがあるか」といった簡単な質問を口頭で行います。ここでは題材とそれぞれの生徒の経験をつなぎ、題材に関する興味を持たせることを目的とします。

1st Reading <Silent Reading>(R)

ここの読みは、生徒が長い分量の英文に慣れることと物語を味わうことを目的として行います。そのため途中で区切って読むのではなく、最初から最後まで一気に読ませ、初見の英文を自分の力で読ませる経験をさせます。またこの活動では内容のおおすじをつかむことも大切です。それぞれの場面を表す絵を並べかえさせ、物語を大きいイメージで把握させます。生徒の理解度はさまざまであるため、早くできた生徒には教科書にある1st Readingのタスクを行うよう指示しておきます。

1st Listening (L)

デジタルテキストを示しながら音声聞かせ、絵の並べかえ問題の答え合わせをします。Universal Design for Learning (UDL) の考えにもあるように、自力で読んだ(視覚的情報)だけでは理解できなかったものも音声(聴覚的情報)を追加することで物語を理解しやすくなる生徒もいます。

2nd Reading <Silent Reading> (R, W)

本文の細かい内容をおさえることを目的とし、本文を読んだあとに、教科書にある2nd ReadingのタスクとCheckの質問に答えさせます。2nd Readingのタスクに関しては、質問文が日本語で書かれているので、同じ文を英訳したものを事前に準備しておきます。生徒が自分の理解に合わせてどちらかを選択できるようにします。

2nd Listening (L, R)

音声を聞きながら本文を読ませ、本文に強勢を表す記号や区切りを記入させます。このあと音読練習を行うため、正確に一人で本文を読めるように確認させることが目的です。そのあと自分が書いたものをペアの生徒と確認させ、もう一度音声を聞かせます。このように、教師が一方的に伝えるのではなく、生徒自身の気づきを大切に、自立学習を促すことを意識しています。

3rd Reading <Reading Aloud> (R, S)

Buzz Reading, Chorus Reading, Read & Look-up (pair), Keyword Reading (pair) など、さまざまな音読練習を行います。Buzz Reading, Chorus Readingでは、2nd Listeningで聞いた音声を参考に、それぞれの語を適切に発音することや区切りに注意して音読させます。また、後に物語の一場面を表す絵カードを用いて、ペアであらすじを話す活動を行うため、Read & Look-upやKeyword Readingを通して徐々に読みから話す活動へと移行します。そうすることで、生徒に口慣らしをしながら本文に対する理解を深めさせることができます。

4th Reading <Silent Reading> (R, W)

グラフィックオーガナイザー(Thinking Toolのひとつ。マッピングを用いて思考過程をビジュアル化する)を用いて内容を整理させます。本文に書か

れていない情報(ピーターの心情など)はその場面から想像し、記入させます。その後グループに分かれて自分が書いたものを他のメンバーと共有させます。グラフィックオーガナイザーを用いることで英文の内容を構造化し、場面場面のつながりを理解することが可能になります。また、グラフィックオーガナイザーは生徒の理解を可視化することができ、Readingの活動においても学習者、指導者ともに有益なものだと考えています。

Picture Description (L, S, W)

物語の場面ごとのイラストを用いて、その場面を口頭で描写させます。ペアの生徒と十分練習させ、最後にワークシートにその内容を書かせます。口頭練習では流暢さに留意し、ワークシートの英文は正確さを確認します。

Story Making (L, S, W)

オリジナルの物語を作り、発表する活動です。場面を表す4枚の絵を用意させますが、絵が苦手な生徒もいるため、タブレット端末を使って探した写真を用いることも可能とします。この活動は4人グループで行い、最初にテーマや登場人物などの情報を話し合いで決め、物語を作成させます。原稿完成後、グループ内で十分練習を積み、自信を持って発表できるようにします。また、発表の際には物語に関する質問を用意させ、聞き手に提示し、答えさせます。

おわりに

授業で実施する活動は、生徒にその目的を理解させた上で活動に取り組みせています。そのため、単元の最初に本單元におけるねらいと総括的評価課題、そしてルーブリックを提示します。生徒の進捗状況を数値やチャートで提示することで、自ら確認し、課題を見出す自律学習へと導くことが可能となります。また、クラス全員がわかる(できる)ことを前提に、活動の様子や生徒のワークシートから形成的評価を繰り返し、それぞれの学習者に合わせたタスクを設定することを心がけています。4技能を総合的に活用させ、生徒の理解を深めると同時に総合的な英語運用能力が高まるよう心がけ、指導しています。

“Alice and Humpty Dumpty” —ことばの「掛け合い」・「社会性」・「身体化」—

田嶋美砂子

(元星美学園中学校・高等学校)

1. はじめに

“Alice and Humpty Dumpty”(以下, “Alice”)は長きにわたり, *NEW CROWN* の物語教材として取り上げられてきました。原作がしばしば映画化・アニメ化され, 日本語の翻訳本も複数出版されているため, 中学生にとって馴染み深い作品であることがその背景の1つとして挙げられます。しかし, *NEW CROWN* で “Alice” を扱う理由はそれだけではありません。本稿では, “Alice” を通じた英語学習の意義をことばの (1) 掛け合い, (2) 社会性, (3) 身体化という観点からまとめます。そして, それぞれの意義を深めるために, 授業内でできることを thinking / feeling と embodying に分けて紹介したいと思います。

2. “Alice” を通じた英語学習の意義

(1) ことばの「掛け合い」を楽しむ

“Alice” の原作は 19 世紀半ばに英国で出版されました。子ども向けに書かれた物語ですが, 当時の英国社会への風刺や人間全般に対する批判も込められている点が特徴です。ハンプティ・ダンプティが終始不機嫌かつ横柄な態度で, 難解なことを語る場面はその一例で, この作品が単なる児童書ではないことを示しています。興味深いのは, 「ああ言えば, こう言う」ハンプティ・ダンプティに対し, 7 歳半のアリスが硬軟織り交ぜながら, 応戦する様子です。疑問に感じたことを率直にぶつけたかと思えば, ハンプティ・ダンプティの気持ちに寄り添うような発言をすることもあります。まだ子どものアリスですが, 幼いなりに相手の心の機微を理解していると言えるでしょう。しかし, そんなアリスも, 最後にはハン

プティ・ダンプティの嫌がるマザーグースを歌い, つい彼を怒らせてしまいます。“Alice” ではこのように, 両者の一筋縄ではいかないことばの掛け合いを通じ, コミュニケーションのおもしろさだけではなく, その難しさや複雑さも学ぶことができます。

(2) ことばの「社会性」について考える

アリスとハンプティ・ダンプティの間で交わされるやりとりは, ことばの社会性についても考える機会を提供しています。例として, 以下の対話を見てみましょう (H=Humpty Dumpty / A=Alice)。

H: I'm Humpty Dumpty. What's your name, little girl?

A: My name is Alice.

H: Alice? What does it mean?

A: Does a name mean something?

H: Of course it does. My name means my shape.

(*NEW CROWN Book 1*, p.127 の一部を対話形式に改編)

この対話は平易な英語で書かれていますが, 言語学的に深い問いが含まれています。それは, 「名称=実体」と言えるのかどうかという問いです。アリスが「名前って何か意味があるものなの?」と尋ねるくだりには, 「名称≠実体」の思考が窺えます(中村, 1993)。一方, 「わしの名前は, わしの姿かたちを表しておる。」というハンプティ・ダンプティの発言は, 「名称=実体」を示唆しています。簡単には決着がつかない問題ですが, “Alice” が「意味論のイロハから固有名詞の記号論に至るまで」(中村, 1993, p.45)を網羅しており, 中学生がことばの社会性について考える一助となることは間違いなさそうです。

(3) ことばの「身体化」を促す

昨今の社会言語学や応用言語学では, 言語使用を

「社会的で、身体化された行為」(Pennycook, 2007, p.13, 筆者訳)と捉え、人間の身体を含めた、言語使用の起こる場に注目する研究が盛んになってきています。日本の英語教育界でも、知識の蓄積や機械的になりがちな活動を超え、生徒が心と身体で言語使用の実感を得ることの重要性が指摘されています(柳瀬, 2012)。この点において、“Alice”はとてもよい教材になり得ます。原作を大幅に書き換えてありますが、可能な限り、ことば遊びに富んだ文体を残しているからです。特にアリスが歌うマザーグースは、英語詩の原点と呼ばれる韻を含んでいるので、英語特有のリズムを身体化させるのに適していると言えるのではないのでしょうか。

3. 授業内でできること

以上のまとめを受け、ここでは授業での指導例を thinking / feeling と embodying に分けて紹介します。

まず thinking / feeling に関しては、登場人物の思考や心情をセリフから推測したり、言い回しでおもしろいと感じた箇所を共有したりする活動が挙げられます。用意するのは、アリスとハンプティ・ダンプティの掛け合いを対話形式に打ち直したハンドアウトです(対話の前には p.126 の英文も加えておきます)。そして、以下のような質問を投げかけ、3人グループで話し合いをする時間を設けます。

- ① “I’m late. I’m late.”には、白ウサギのどのような気持ちが込められていると思いますか。
- ② “Does a name mean something?”には、アリスのどのような考えが表れていると思いますか。
- ③ ハンプティ・ダンプティが “Of course it does.”と断言するのは、なぜだと思いますか。
- ④ 最初にベルトをほめたアリスが “Well, it’s a very nice tie too.”と言ったのは、なぜだと思いますか。
- ⑤ “Humpty Dumpty sat on a wall. Humpty Dumpty had a great fall.”の歌詞で、何か気づくことはありますか。
- ⑥ すべての英文の中で、言い回しがおもしろいと感じたところに下線を引きましょう。

ある程度の時間が経過したら、各グループの意見をクラス全体で確認します。なお、ここで注意した

いのは、教師側が唯一絶対の解答を提示しようとはしないことです。中には解釈が分かれるセリフもあるからです。むしろ、そのような解釈に至った理由をみんなで共有したいところです。

そのあとは、言い回しでおもしろいと感じた箇所の練習に移ります。この練習は席から起立して行うとよいでしょう。また、英語のリズムをよりよく理解するために、次のような記号を使い、視覚的に捉えさせることも効果的です。

● ● ● ● ●
Humpty Dumpty sat on a wall.

Embodying は、すべてのグループがアリスとハンプティ・ダンプティの対話を実演する時間です。1人がナレーターとして p.126 の英文を朗読し、物語がスタートします。ここでの目標は、thinking / feeling で推測した登場人物の思考や心情、おもしろいと感じた言い回しがクラスメートに伝わるように、ことばを身体化させることです。だからと言って、大きな身振り手振りが必要なわけではありません。重要なのは、人の心に届くことばは口先ではなく、身体全体から発せられる声によって可能になることの実感です。つまり、この活動の意義は、「音声が発する土台たるからだを動かすことによって、生き生きした表現に至る」(竹内, 1999, pp.119-120, 柳瀬 (2012) の引用による)過程を経験することにあると言えます。

4. おわりに

上述のように、登場人物の思考や心情を推測したり、ことばを身体化させたりするのに、“Alice”は最適です。しかし、それは一朝一夕で達成できるわけではありません。“Alice”以前の授業でも、文章やセリフの背後にあるものに思いを馳せる心と、英語の音に敏感な身体を日々育てていきたいものです。

【参考文献】

- 中村敬 (1993). 『外国語教育とイデオロギー—反=英語教育論—』近代文藝社.
柳瀬陽介 (2012). 『竹内敏晴 (1999) 『教師のためのからだことば考』ちくま学芸文庫』『英語教育の哲学的探究 2』(http://yanaseyosuke.blogspot.jp/2012/04/1999.html) (2016年11月16日閲覧)
Pennycook, A. (2007). *Global Englishes and Transcultural Flows*. Routledge.

会話文のみで展開される物語の指導

—A Pot of Poisonの指導を通して—

枝迫香菜

(奄美市立名瀬中学校)

1. はじめに

NEW CROWN Book 2 で扱われている *A Pot of Poison* は、会話文のみで展開される物語です。そのため、一文一文が短く、220 words という語数の割には、比較的読みやすい教材となっています。

一方で、場面状況や登場人物の感情についての説明がないため、それらを台詞の中から読み取っていかなければならないという難しさもあります。

本稿ではこのような教材の特性を踏まえた上で、その指導方法の一例を紹介します。

2. 生徒の読み方をコントロールする発問

本文を読ませる際の指示はとても大切です。なぜなら、あいまいな指示をしてしまうと、生徒が上から順番に、台詞を訳しながら読んでしまいがちだからです。

そこで、生徒の読み方をコントロールするための指示を考えます。例えば、本教材の p.53 を読ませる際には、次のように指示します。

- ① What does the Master say?
- ② Choose two important sentences.

大切なのは、①だけでなく、②の指示を加えることです。①だけでは指示があいまいになってしまいますが、②を加えることで「どの台詞が大切なのか」という視点をもたせることができます。そうすることで、ただ台詞を訳すだけではなく、前後の文脈や指示語の内容などにも注目する読み方へと、生徒を導くことができるのです。

なお、ここでは、“Remember, don't touch the pot over there while I'm out.”, “It's full of

poison.” の2文を選ぶことで、場面状況を的確に読み取ることができます。

3. 登場人物への理解を深めさせるペア活動

pp.54-55 は、小僧さんそれぞれの個性を読み取らせるのに適した場面です。そこで、下のような性格を表すことばを示し、それぞれの性格に最も当てはまる人物を一人ずつ選ぶように指示して読ませます。

ア 気が弱い イ やんちゃ ウ 好奇心旺盛
エ マイペース オ 素直 カ 真面目

そして、本文を読ませたあとに、次の点についてペアで話し合えます。

- ① それぞれ誰を選んだか。
- ② その人物を選んだ理由は何か。

大切なのは、ペアの相手に対して自分が選んだ理由を説明させることです。例えば、「好奇心旺盛」なのは観だと考えた生徒は、“What's this brown stuff in it? I'll eat some.”と言って最初に食べたことをもとに説明し、珍だと考えた生徒は、“What do you think about the pot?”と最初に興味を示したことや、観の“Have some.”に応じてすぐに食べてしまったことをもとに説明します。

このように、ペアで話し合うことによって、自分の読み方を振り返ったり、他の視点に気づいたりしながら、より登場人物への理解を深めることができるのです。

4. 物語の本質的な楽しさを味わう読み方

忘れてはいけないのが、物語の本質的な楽しさを味わわせるということです。この教材は狂言を原作

としており、最後にくすりと笑える落ちがあります。その落ちを、解説なしに理解し、実際にくすりとできたときに、生徒は物語の楽しさやそれを理解できた充実感を味わうことができます。

そのためのポイントは次の2つです。

- ① 前段までに場面状況や登場人物についてしっかりと理解させておく。
- ② 落ちを読む前に、最後はどうなるのかを予想させて、期待感をもたせる。

物語教材の読ませ方として、初めに通読をさせるという方法もちろんあります。しかし、この教材の場合、一度最後まで読んでから精読していくとなると、物語のおもしろさが損われてしまう恐れもあります。まずは p.55 までで場面状況や登場人物についてしっかりと理解させることで、最終ページを自分の力で読みとらせ、物語の本質的な楽しさを味わわせませす。

また、このあとの展開をペアで予想させておくと、「自分たちの予想は合っているだろうか。」という期待感をもって最終段落を読むことにつながります。「そうきたか!」「やっぱりね!」ということばが聞ければ、大成功と言えるでしょう。

5. 読むこと以外の活動への展開

このような物語教材では、最後に、寸劇など読むこと以外の活動へと授業を展開したいものです。しかし、本教材をそのまま演じようとする、やや長すぎる感もあります。そこで、次のような指示をして、各グループで寸劇を行わせませす。

- ① 台詞は全て覚えて演じる。
- ② 台詞は削除したり短縮したりしても良い。
- ③ ただし、物語の内容が伝わるようにする。

このような指示をすれば、生徒はさまざまな工夫をしながら物語を表現しようとして、そのことが次のような効果をもたらします。

- ① 削除したり短縮したりすることで、本文の要約にもつながる。
- ② ことばの少なさを補うため、生き生きとし

た表現へとつながる。

- ③ グループごとに異なる発表となるため、新たな発見があり、楽しみながら鑑賞できる。

なお、台詞の削除や短縮については、p.53 で大切な英文を選んだことを想起させると、スムーズに活動させられます。また、教科書の挿絵も大きなヒントとなります。この教材では6枚の絵が使用されていますが、これらを漫画のように並べて、台詞が書き込めるように工夫すれば、生徒のイメージが膨らみ、寸劇作りに役立ちませす。

6. 着目させるべき表現

本教材は、会話文のみで展開される物語です。そのため、「We always are.」や「Yes, let's.」「Don't!」など、省略された表現が多く見受けられます。そこで、本文を読み進める際には、教師が適宜これらの示す内容を問う発問を行いながら確認していくと良いでしょう。

また、このような教材に限らず、まとまりのある英文を読む際には、代名詞の指す内容にも注目させる必要があります。例えば、本教材の中では、「安はつぼの砂糖を食べたのか。」という質問をすると、自然と代名詞に注目させることができます。観の「We ate all of it.」という台詞の We に、安が含まれているかどうかを問いかけると、なかなかおもしろい話し合いができるのではないのでしょうか。

7. おわりに

会話文のみで展開される物語を読む際には、それぞれの場面を、視点をもって読み進めることが大切です。一文一文は短くても、その台詞の中に、場面状況や登場人物について理解するための情報が隠されているからです。

「なんと書いてあるのか。」ではなく「何が語られているのか。」を考えられるようになれば、生徒はより深く物語の内容を理解し、英語を読む楽しさに気付けていきます。教材研究を行う際には、教師自身がこの視点をもち、物語を楽しむ姿勢を忘れずにいたいものです。

4技能を高めるLet's Readの効果的な指導

～前後のLessonとの連携・4技能の橋渡し・自立した学習者を目指して～

鈴木 悟

(東京都立両国高等学校附属中学校)

はじめに

年間計画の中で単元ごとに軽重をつけることは大切なことだが、Lessonに時間をかけるがあまり、Let's Readを扱わないで終わらせてしまうことはないだろうか。Let's Readでは、目の前の生徒にどのような力をつけさせたいかで、指導の重点を何に置いか変わってくるが、短時間であっても取り組み次第で効果的に使うことができる。NEW CROWN Book 3 (NC3) *Dolphin Tale* を例に紹介する。

[時間を制限し、その中で速く読ませたい]

このような読み方をさせたい場合、英文を日本語に訳して理解させるのではなく、英語を英語のまま理解させる指導が必要だ。例えば、p.49の7行目“*He suddenly stopped. He saw the dolphin.*”を読む際は、少年が突然自転車を停止させたり、イルカが浜に打ち上げられている様子を頭の中で思い浮かべ、英文の情景や場面を映像化しながら読めるようにする。この映像化ができると物語全体を速く読めるようになる。そのためにも、入門期から教科書のPicture Card (PC)を使って、絵や写真を声に出して描写する活動を取り入れ、Reading力につながるSpeaking力を育てていく。本校では中高6年間を通して、単元のゴールに、教科書のPCの内容を英語で説明する発信活動を設定している。詳しくはTEACHING ENGLISH NOW 特別増刊号 Vol.1 (2015), pp.10-11を参照いただきたい。

[速く読んで、正確に内容を理解させたい]

前述の黙読と映像化のトレーニングを継続して行い、2年次からは教科書のUSE Read・Let's

Read・Further Readingを活用して読む力をつけていく。具体的には、教科書の絵や写真を見て英語で描写したり、Key Words (*Dolphin Tale* といえば *dolphin, boy, sea, drink* など) を言う活動を短時間で行ったあと、個人で本文を黙読する。全ての英文を理解させる必要はなく、p.52のRead and Think Aなどを使って概要や要点を確認できる程度でよい。また、内容理解を促すために、1st Readingでは次のような活動も取り入れたい。

物語を読む際に難しいのは、登場人物の把握だ。ここで躓いてしまうと、物語を楽しめず、また概要把握もできず、読むことをあきらめてしまう生徒も少なくない。そこで、Sketchingというアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。これは、絵や写真を見て(瞬時に)英文を言う活動とは逆で、読んでわかったことを絵で表現する活動だ。

まず、4分80語をめやすに英文を読み、登場人物の相関図など、わかったことを絵に描いていく。絵はスケッチ程度のものでよい。次に生徒は、自分で描いた絵をもとに、物語の内容について分かったことを、互いに英語で伝え合う。描き終わっていない場合は、絵を描き足しながら説明してもよい。また、ペアやグループ内で描かれた絵や英語の説明が異なっていれば、もう一度英文を読み直すきっかけにもなる。最後に、自身が話した内容について、足りない情報があれば絵を描き加え、先ほどとは異なる相手に説明する。(さらに足りない情報があれば、相手に描き加えてもらってもよい。)ただし、ここでは描くことに時間をかけるのではなく、そのあとの伝え合う活動をすることが大切だ。

絵が描けて(時間があれば、英語で概要やストーリーを説明できて)いれば、本文の概要を理解して

いと捉えることができる。このような活動を USE Read でも取り入れておけば、Let's Read への取り組み方や指導時間も変わってくる。また、NC3 では、Lesson 4 の USE Write に「物語の要約文を書こう」という活動があるので、それも Let's Read の概要理解に活かせるだろう。

「登場人物の気持ちや場面の様子が伝わるように、強弱、間、抑揚などを意識して本文を音読させたい」

指導時間に余裕がある場合は、音読活動を設定してもよい。NC3 では、*Dolphin Tale* の直後にある Lesson 5 に、「行きたい場所についてスピーチをしよう」という発信活動があり、「聞き手に効果的に伝わるよう工夫する」という課題が設定されている。生徒は、強調するところを強く読んだり、ゆっくり読んで工夫するだろう。しかし、実際に発信活動の中で使えるようにすることを考えると、*Dolphin Tale* でも発信を意識した音読練習が必要だ。具体的には、登場人物の気持ちや場面の様子が伝わるよう、強弱、間、抑揚など読み方の工夫を個人で考えてから、ペアやグループで読み合い、工夫したことについて意見を交換する。必要なら、最後に付属の CD を聞いて音声を確認してもよい。さらに、英文を映像化しながら音読練習をすれば、映像化や Sketching の効果を高め、速読にもつなげることができる。

「学期の終わりに映画を見せたい」

1年間を通じた学級経営を考えると、各学期の最後は落ち着いた状態で締めくくりたい。*Dolphin Tale* は、映画を題材にしているので、実際の映画を見ることができる。題材によっては、教師が文化的背景や歴史を説明したり、鑑賞するときの視点を伝えることもあるが、この映画は事前学習はあまり必要ないので、ストーリーそのものを楽しむことができる。教科書本文を読んでから映画を見る場合、物語の概要がわかっているので、教科書の場面が実際の映画の中でどのように演出されているかを楽しめる。

また、映画を使った英語の学び方を教えてもよい。ここではいわゆるディクテーション活動を紹介します。

まず事前に、教科書で学んだ英語表現を使っている会話の場面を探しておき、その場面の音声を文字化したスクリプトを使って、単語の穴埋め課題を作成した後、次の手順で授業を行う。

- ① 課題の会話場面を映像で見る。(字幕なし)
- ② 音声のみを聞いて単語を書き取る。(映像なし)
- ③ ペアで聞き取れた単語を確認する。
- ④ クラス全体で答えを確認し、課題を完成する。
- ⑤ スクリプトを実際の発話スピードで音読する。
- ⑥ 再度、課題の会話場面を映像で見る。

この手順を踏めば、生徒は、①で聞き取れなかった音声⑥では聞き取れることに驚く。つまり、音のつながりなどを意識して正しく音読できれば、ネイティブの自然な発話も聞き取れるということを感じ取る。その後、英語の台詞を映像に合わせてアフレコしたり、身振りを加えてスキットに取り組みれば、前述の感情をこめた音読活動ともつながる。新たな英語の楽しみ方を知ることは、ひとりで学び続ける生徒を育てるためには必要だ。

「自分の力で読めるようにしたい」

訳読式で本文の意味を1文ずつついでに解説する授業をすれば、定期試験はそれを覚えているかどうかを問うものになり、生徒は教師の説明を覚えようとする。しかし、前述のような4技能を意識した授業であれば、定期試験は和文英訳のような問いではなく、「まとまりのある英文を読み、その概要や要点を理解している」かどうかを問うものになる。そうすれば、生徒は日本語訳などを覚えるのではなく、英文の読み方を復習したり、初見の英文を読む練習をするようになる。これは、ひいては、自分の力でまとまりのある英文を読む力を育むことにもなる。

おわりに

高校に入れば、聞いたり読んだりする英文の量が増え、語彙の難易度もあがる。まとまりのある英文を読むとき、わからないことがあっても、あきらめずに自分の力で読み進める力をつけることが、自立した英語学習者を育てることになる。そのために中学でも多くの英文に触れる機会を作りたい。

授業は「導入」で決まる

重松 靖 Shigematsu Yasushi
(国分寺市立第二中学校)

はじめに

大学時代、英語科教育法に関して必要最低限の単位しか取得せず、教員になってからも教科指導より学級経営に関する本ばかり読んでいた私でも、新出文法事項の導入にだけはこだわっていた。落語が好きで、「まくら」や「つかみ」がいかに大事かを実感していたからかもしれない。

参考にしたのが、教員になってすぐに購入した『英語指導法ハンドブック ①導入編』（大修館書店、1976）だった。中学・高校で学ぶ文型・文法事項を取り上げ、GDM、オーラル・アプローチ、オーラル・メソッド、変形文法の4つの指導法に基づく導入例を紹介した辞書のような分厚い本だ。自分流にアレンジして使うことが多かったが、「授業は導入で決まる」ということを実感させてくれた、私にとってのバイブルだ。今回はその「導入」についてまとめてみたい。

導入の目的は意味を予測させること

落語の「まくら」は、話の起承転結の「起」の部分にあたる。観客の緊張を解きほぐしたり、演目の予備知識をさりげなく説明したりして、スムーズに本編へとつなげていく。

英語の授業における「導入」も同じだ。新しく学ぶ文法事項を、自然な形で、かつわかりやすく紹介し、メインとなる言語活動へと無理なく導いていく非常に大切な役割を果たす。しかし、生徒は観客であってはならない。常に思考をアクティブな状態にし、新出文法事項の意味を予測したり、それまでに学んだこととの違いに気づいたりする、能動的な学習でなければならない。そのために、導入において

は、私は常に次のことを意識していた。

- ・大量の input を与え、意味の予測を容易にする。
- ・input の英文には文脈を与え、理解を容易にする。
- ・input の場面や状況をはっきり示す。
- ・生徒とのインタラクションを通して導入する。
- ・日常の生活や経験と結びつけ、興味・関心を引きつける。
- ・既習事項と対比させる。

視覚に訴える

英文を大量に聞かせる際、文脈を与えるだけでなく、次に示す5つの方法で、視覚からの情報と組み合わせることにより、容易に意味を予測したり確認したりすることができる。

①実物を使う

実物を用いることは何よりインパクトがある。国内外の旅行で、授業で使えそうなものは何かないかな、と探すのも楽しいものである。ただし、ものの中身や内容に興味・関心が集中してしまうことがあるので注意が必要だ。

②絵を使う

イラストを描くことが好きな生徒の協力を得て注文通りの絵を描いてもらい授業で使うと、それだけで生徒たちは興味をもち、集中する。

SVOO, SVOC, 受動態など語順が複雑な事項を導入する場合に、主語、動詞、目的語や補語などにあたる人やものをイラストにして黒板に貼ると、導入だけでなく、ドリルや自己表現にも活用できる。

③映像・画像を使う

カメラやビデオカメラを使って撮影したり、フリー素材を利用することで教材がよりリアルになる。

たとえば、世界のさまざまな標識を見せながら、命令文や **must / must not** を導入したり、昼休みや放課後の様子をビデオカメラで撮影し、現在進行形や過去進行形、**can** の導入に活用することができる。また、世界遺産や名所・旧跡の画像を使えば、比較級や最上級、不定詞などを導入することもできる。

④動作で演じる

Total Physical Response (TPR) の手法を使い、動きのある語彙を導入したり、命令文や現在進行形、未来を表す表現、過去形、**can** などを導入したりすることができる。

⑤図示する

実際の地図を使って道案内をしたり、年表や時の流れを示す直線を使って現在完了形などの時制を、グラフや表を使って比較などの文法事項を導入したりできる。

導入例

生徒との対話を中心に、教師や生徒自身のことを題材にした導入例を1つ紹介する。理解を容易にするためにワードカードを使い、導入からドリルへのスムーズな移行も心がけた例である。

文法事項 3人称単数現在形(3単現のs)

準備するもの ワードカード3枚(表に like, play, go, 裏に likes, plays, goes)

対話例

T:(like のカードを見せながら) I like baseball.
I like Yomiuri Giants. I like TAKAHASHI Yoshinobu very much. St1, do you like baseball?

St1: Yes, I do.

T:(like のカードを見せながら) Oh, you like baseball.
Do you like Giants?

St1: Yes, I do.

T:(like のカードを見せながら) You like Giants! Great!
(全員に向かって) I like baseball. I like Giants.
(likes のカードを見せて) St1 likes baseball. He likes Giants too.

[同様に数名の生徒と対話]

T:(like のカードを見せながら全員に向かって) I like Giants.
(likes のカードを見せながら全員に向かって) St1 likes Giants. St2 likes Giants too.
(like のカードを見せながら全員に向かって) St1 and St2 like Giants. They like Giants.

生徒との対話では、“likes”, “St1 likes Giants.”, “St1 and St2 like Giants.”, “They like Giants.”の部分を、全体で数回リピートさせたり、数名を指名して個人で発話させたりして、繰り返し言わせる。(mechanical drill の1つ)

また、同様に play / plays, go / goes のワードカードを使って生徒と対話し、3単現のsの使い方を予測させる。“I play tennis. St3 _____”のように、生徒から“plays”を引き出し、正しく理解できているかどうかを確認するために、少し間をおくことも大事である。

意味の確認

生徒の表情や発言から意味が理解できたと思われるところまできたら、“I like baseball. St1 likes baseball.”を板書する。教師が板書すると生徒は条件反射的にノートを開くが、この段階ではノートに写させることはしない。また、時間を節約するためにセンテンスカードを貼ったり、ICT機器を活用したりすることを勧めたい。また、「3単現のs」などのいわゆる文法用語を使って、教師から文法的な説明を長々とすることも絶対にしない。inputされた英文から「主語がI, you以外で1人のときには動詞にsがつく」というルールを生徒から引き出し、意味を確認する程度に留める。そうすれば教師と生徒との対話のリズムを崩さずドリルに移行することができる。

おわりに

「まくら」がうまい落語家は必ずおもしろい落語家だ、と言われるそうだ。確かに、人間国宝に認定された柳家小三治さんは、「まくらの小三治」と呼ばれている。導入の上手な英語教師も魅力的な授業をする教師が多い。導入で生徒をしっかりと引きつけ、テンポよく言語活動を展開していく。そんな教師をぜひ目指してもらいたい。



テスト統計の哲学

根岸 雅史 Negishi Masashi
(東京外国語大学)

1. テストづくりと統計の話

現代の言語テストづくりでは、テスト統計の果たす役割は大きい。大規模な言語テストにおいては、そのテスト結果から受験者の言語能力を推定して、スコアにして返却するというプロセスがあり、ここではテスト統計は必須である。言語テストの学会ともなれば、多くの発表は、テスト統計の知識がなければ理解できないと言っていいだろう。

このような状況にもかかわらず、中学・高校の定期試験づくりの場において、テスト統計の観点から議論がなされることはほとんどないのではないか。確かに、大規模テストの開発機関のように、テスト統計の専門家がデータを分析してくれたり、データがパソコンで分析できるような形式になっているわけではないので、大規模テストの開発機関と同じことができるわけではないだろう。しかし、だからといって、定期試験がテスト統計のまったくの「聖域」であってよいわけでもない。

では、学校内で行われる定期試験において、テスト統計はどのようにして活かされるのだろうか。現実に定期試験のデータにテスト統計を適用できなくても、教師がテスト統計の哲学、つまり、テスト統計がどのようなロジックに基づいているか、ということを知っておくことは重要だ。

2. 信頼性の哲学

まず、テスト統計の重要概念としては、「信頼性」が挙げられるだろう。これはテストの得点の安定性を意味する。多くのテストング本では、第一義的には「何度測っても同じ結果が出るかどうか」と説明されている。これは、再テスト法につながる考え

方で、直感的には最も理解しやすいタイプかもしれない。しかし、現実には、同じテストを何度も実施することや、同じ目的のテストをいくつもつくることはないだろう。こうした理由もあって、実際には、テストの信頼性はその「内的一貫性」によって推定される。

テストの内的一貫性が高いということは、全てのテスト項目が同じような能力や知識を測っているということを意味している。テストがそういう状態であれば、そのテスト結果は安定していると考えられるということだ。少々奇妙なたとえかもしれないが、コーヒーに入れた砂糖の量がどれくらいかを調べる場合、よくかき混ぜてサンプルを取れば、どこからとっても同じ濃さとなるが、もしかき混ぜていなければ、上の方はほとんど糖分がなく、下の方は相当な糖分があるはずだ。これを測定と考えれば、かき混ぜてある場合（つまり、内的一貫性がある場合）、測定結果は安定するだろう。

テストの信頼性は、今日では一般にクロンバック α という係数で示されるが、この計算式を見れば、問題数が増えるほど信頼性係数は高まり、同じような技能や知識を問う問題が多ければ多いほど信頼性係数は高まるということもよくわかる。

3. テスト項目の弁別力の哲学

テストの信頼性がテスト全体の内的一貫性を見ようとしているのに対して、テスト項目の弁別力はそれぞれのテスト項目の善し悪しを見ようとしている。そのロジックは次のようなものである。テストの全体得点は、測ろうとしている能力や知識の量を表しており、それと強い関係にあるテスト項目は、能力や知識の弁別力があると考えるのである。つま

り、測ろうとしている能力や知識のある受験者が正解し、その能力や知識のない受験者が不正解になるテスト項目は、弁別力があると言えるというものだ。

弁別力の計算式としては、点双列相関係数(point-biserial correlation coefficient)が代表的であるが、この数値が正であれば能力の高い受験者がその問題を正解する傾向があることになり、負であればその逆の傾向があることになる。この数値が0.2より小さければ、何らかの問題がある可能性がある。もっとも、より簡便な項目弁別力指数(item discrimination power index)というものもある。

また、エクセル表に受験者ごとのテスト項目の出来と総合点を入れてあれば、それを活用できる。総合点を降順に並べ替え、上にある受験者の多くが不正解のテスト項目や、下にある受験者の多くが正解しているテスト項目が見つければ、それらのテスト項目は弁別力が高くないことを示唆しているだろう。

4. テスト統計の大前提

テスト統計の前提となる考え方がいくつかある。それは、まず、テストは何かの技能や知識を測っているということである。これは一見自明なことのようと思われるが、実は定期試験の作成者となる教師がみな持っている前提ではないかもしれないのだ。「このテストはどんな技能や知識を測っていますか」という問いに、即座には答えられない教師は意外と少なくない。それから、もうひとつの前提は、1つのテスト(個別のテスト項目ではなく、テストの全体)は、基本的に1つの技能または1つの知識を測っているというものである。最後に、全てのテスト項目は、その能力や知識を測っているべきであるという前提である。実は、現代テスト理論の柱である項目応答理論でも、これらは重要な前提となっている。いわゆる次元性といわれるもので、前述の信頼性の前提と類似した考え方とも言える。

5. テスト統計と定期試験の英語のテストの矛盾

テストの信頼性もテスト項目の弁別力も、そのテストが全体として同じ能力や知識を測っているという前提がある。

一般的な英語の定期試験を考えてみよう。現行の観点別評価のうち、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を除いた「外国語理解の能力」「外国語表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」を筆記試験で測るとする。こうなっている時点で、この定期試験は1つの能力や知識を測っているとはいえないだろう。また、定期試験が筆記試験だとしても、技能別にみると、「読むこと」「書くこと」「聞くこと」から成ることになる。これでは、測っている技能は1つとは言えない。

定期試験がこうした構成であれば、異なる技能や知識を測る大問に含まれるテスト項目の1つが、全体得点の善し悪しと関係しているとは考えにくい。ましてや、受験者集団は、一般的な大規模テストの受験者とは異なり、能力の幅はかなり狭く、技能や知識ごとにある程度の得意不得意が想定できる。

となると、テスト統計の大前提と定期試験は、あまり相性がよくないと考えられる。これは、厳密な意味では大規模テストでも同じである。しかし、現実には、テスト統計を用いることで得られる利点が大きなものであるために、多少の相性の悪さには目をつぶって利用しているというのが現状だろう。

6. では、どうする

さまざまな制約を考えて、考え得る解決策はどのようなものだろうか。特定の指導を前提とする定期試験では、その指導目標を確認し、それに基づいて「テスト・ポイント」ごとに構成されたテストを作成することになる。そこで、テスト統計の哲学を活かすとすれば、それぞれの大問では1つの「テスト・ポイント」を意識し、「内的一貫性」が保たれるように各テスト項目を作成することだろう。その上で、大問ごとに、英語力の高い生徒(あるいは、そのセクションの得点の高い生徒)が不正解となっていたり、英語力の低い生徒が正解していたりする項目がないかチェックを心がけることだ。

もちろん、自身の定期試験のデータを自分で分析したいと思うのであれば、今日では使い勝手のよい市販の統計ソフトやフリーの統計ソフトがあるので、それらを用いて一度分析してみるとよい。

Just Now

外国語活動におけるチャンツ指導 — 小・中学校の英語教育の接続 を視野に入れて —

箱崎 雄子 Hakozaki Yuko
(大阪教育大学)

1. はじめに

小学校の外国語活動の授業では、ほぼ毎時間、チャンツの指導が行われています。文部科学省作成の *Hi, friends!* では各レッスンにはほぼ1つずつチャンツが掲載されています。ちなみに、歌に関しては、*Hi, friends!* 1で2曲紹介されているだけです。では、外国語活動において、これほどまでにチャンツが利用されている理由は何でしょうか。

2. 外国語活動でチャンツを利用する意義

外国語活動では、「コミュニケーション能力の素地を養う」という指導目標のもと、「聞くこと」と「話すこと」が主な活動内容に設定されており、「英語特有のリズムやイントネーションを体得することにより、日本語と英語との音声面等の違いに気付く」ことを指導することになっています。授業でチャンツを利用する意義は正にそこにあります。

チャンツは、英語の語句や基本的な表現を一定のリズムに乗せて発音するので、単調で退屈になりがちな反復模倣練習も楽しく感じられ、知らず知らずのうちに何度も繰り返し発話することになります。そして、そのことが、日本語と英語の音声の違いや、語順の違いなどの文構造への気付きにもつながるのです。

日本語はモーラという分節単位を基本とする「モーラ拍リズム」の言語で、原則1文字を1拍とし、どのモーラもほぼ同じ強さ、長さで発音されます。そのため、モーラの数だけ時間をかけて話されます。一方、英語は「強勢拍リズム」の言語で、文を発話する際には、強く、長く発音される語と、弱く、短く発音される語に分かれます。原則として、内容語(名詞、一般動詞、形容詞など、意味内容がはっき

りしている語)には文強勢が置かれますが、機能語(冠詞、be動詞、助動詞、前置詞など、内容語とともに用いられて、文法的な機能を示す語)には文強勢が置かれず、1つの文において強勢を受ける音節が時間的に等間隔に現れます。英語独特のリズムは、強勢の強弱が規則的に繰り返されることによって生まれるのです。

チャンツは歌と違ってメロディーに乗せる必要がなく、英語のリズムやイントネーションという超分節的音声現象や、連結、同化、脱落といった音の連続に伴う英語独特の音声現象に、より意識を向けることができます。チャンツのリズムに乗って語句や表現を何度も繰り返すうちに、児童は、英語の発音で重要な役割を担う英語のプロソディ感覚(スピード感、リズムやイントネーション)を自然に身につけることができます。

チャンツが歌と大きく異なる点はもう1つあります。それは、チャンツの場合、2人の掛け合いで構成されているものが多く存在することです。実際、*Hi, friends!* に掲載されているチャンツの8割強が掛け合いになっています。掛け合いのチャンツを通して、児童は、相槌を打ったり、聞き返したりするなど、コミュニケーションに役立つ表現に慣れ親しむとともに、自分の考えや気持ちなどを伝える際に活用できる基本的な技能を身に付けることができます。つまり、チャンツでは、学習している語句や表現を使う実際のコミュニケーションを疑似体験することができるのです。

3. チャンツの指導上の留意点

チャンツを選定する場合には、児童の発達段階や興味・関心にあった内容のものを選ぶことが大切です

す。学習の初期段階では、繰り返しが多く、身振りや手振りなどを交えて発話できるものがお薦めです。また、外国語活動では、「アルファベットなどの文字や単語の取扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる」とされており、チャンツを導入する際には、絵カードやイラストなどの視覚情報を内容理解の補助として活用する必要があります。

授業では、児童が話したい、伝えたい、聞きたいと思うような、身近で日常的な話題が扱われているチャンツを使って、英語の語句や表現の発話練習を十分に行うことが大切です。表現活動に自信をもって取り組ませるためにも、聞く活動を十分に行い、発話を急がせないようにすることです。Show & Tell やインタビュー活動など、実際に英語を使う場面で、英語の語句や表現が自然と出てくるという体験をすることは、児童にとって「英語が使える」という自信につながるからです。

小学校高学年ではキャリア発達の視点から、自分の考えや気持ちを適切に伝えることが求められています。慣れ親しんだチャンツの単語や語句を、各自に適した単語や語句に入れ替えるだけでも、児童は自分のことについて英語で表現できる喜びを味わうことができるのではないのでしょうか。その際に留意しなければならないことは、指導者があらかじめ入れ替える単語や語句の音節数をしっかりと理解しておくことです。オリジナルのチャンツで使われている単語や語句と同じ音節数のもので置き換えるようにしないと、英語のリズムが崩れてしまい、それはせっかくのチャンツが台無しになってしまいます。

早期外国語教育においては、インプットの質を上げることが最も重要であり、Gilbert (2015) も、プロソディ指導における質の良い繰り返し練習の重要性を力説しています。また、Derwing et al. (2014) は、発音指導の効果を高めるためには、教師が英語音声の特徴を説明したり、学習者の発音上の誤りを修正したりするなど、明示的なフィードバックが重要であると指摘しています。ですから、音声指導の「質」を保証するためには、児童に音声教材を聞かせて、絵カードを見せながらチャンツを言わせるだけでは十分とは言えません。指導者が日本語と英語の

音声的差異を認識した上で、コミュニケーション上、重要な役割を果たす超分節的特徴に焦点を当てて指導を行い、児童のパフォーマンスに対して適切なフィードバックをすることが大切です。

4. 小中連携の視点から

小学校と中学校における英語教育の円滑な接続のためには、小学校では中学校の英語科での指導を意識した指導、中学校では小学校の外国語活動を踏まえた指導を行うことが肝要です。

一番簡単な方法は教材における連携です。多くの中学校の教科書で「自己紹介」や「将来の夢」が扱われていますが、小学校の外国語活動で使ったチャンツを中学校の授業で活用したりするだけでも、外国語活動で学習したことが中学校の授業につながっていることを児童に実感させることができます。

また、外国語活動で慣れ親しんだチャンツの語句や表現を中学校の授業で使うことも大切です。中学校の言語活動においては、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で、チャンツで学んだ語句や表現を「意味のある文脈」の中で繰り返し触れることができるような機会を生徒に提供してはどうでしょうか。

5. おわりに

平成28年8月に発表された「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)」では、高学年から発達段階に応じて、段階的に「読むこと」と「書くこと」を加えていくという方針が発表されました。児童も高学年になると、「読む」「書く」も含めた言語活動への知的欲求が高まると言われています。チャンツ指導においてイラストとともに内容語を文字で提示することで、児童に日本語と英語との音声面等の違いへの気付きをより一層促すことができるのではないかと考えています。

【参考文献】

- Derwing, T. M. and Munro, M. J. (2014). Once you have been speaking a second language for years, it is too late to change your pronunciation. In L. Grant (Ed.), *Pronunciation Myths: Applying second language research to classroom teaching*. University of Michigan Press.
- Gilbert, J. (2015). Intonation is hard to teach. In L. Grant (Ed.), *Pronunciation Myths: Applying second language research to classroom teaching*. University of Michigan Press.



Projectを活用した授業実践(2) — 中学2年:英作文とスピーチの指導 「自分の夢を紹介しよう」を通して

谷口友隆 Taniguchi Tomotaka (相模原市立由野台中学校)

1. はじめに

前回に引き続き、Project を使って、生徒がアクティブ、かつ統合的に英語を使用する授業実践例をご紹介します。2 回目の今回は、2 年生のスピーチ発表に向けた指導に焦点を当てることにします。

でも、大変に意味のある活動になっています。しかしながら、もともと英作文は生徒にとってハードルが高いうえに、このようにたくさんのねらいがあるので、課題が難しいと感じたり、着想に時間がかかったりする生徒もいます。また、個の能力差も出やすいので、生徒がアクティブに取り組めるようにするには、教師の支援そのものにもある程度の準備や工夫が必要であると考えています。

2. 2 年生の Project 実践例

今回ご紹介するのは NEW CROWN Book 2 から Project 2 の「自分の夢を紹介しよう」です。スピーチの原稿を書く (Writing) 指導から、発表 (Speaking) へと技能を統合させていきやすい活動です。

英作文をさせる際に私が心がけていることは、まずレディネスをつくることです。つまり生徒に「書きたい」「書く必要がある」と感じさせ、生徒の実態に即した適切な指導手順を踏み、「これならできそうだ」と生徒が思えるように指導することです。英作文の指導となると、実際に英語を書き進める作業がメインと思いがちですが、生徒を動機づけ、アイデアを出させて、書く内容を整理させ、主題やパラグラフの構成を決めさせるといった「書く前の指導」が大切だと感じています。

ちなみに、Speaking の活動には原稿を書いて覚える発表形式のもの (spoken production) と、会話のように即興でのやりとりを求める形式 (spoken interaction) とがあります。NEW CROWN の USE Speak もこの2種類を意識して作られています。

アイデア出しの段階では英作文となると、生徒が何を書けばいいのか戸惑うことがあります。多くは、生徒がそのような課題に慣れていないか、あるいは生徒にとって手がかりとなるものが少なく、完成イメージが持てないことが原因です。どのように進めればよいかわからない生徒には、題材に関していくつかの選択肢や作文の例を与えるなど工夫してあげる必要があると思います。

今回は、前者の「原稿を覚えて発表する」という形式で、原稿を書いたり、覚えたりしながら、生徒がさまざまな語彙・文・表現を input し、次の段階で即興的にやりとりができる力の土台にしたいと考えています。(即興的なやりとりの指導については、次回3年生の実践でご紹介することにいたします。)

また、この前の段階で学ぶ助動詞や不定詞、接続詞を、生徒が適切な使用場面で使えるようにしていくこと、さらに、初めての本格的なパラグラフライティング (序論・本論・まとめ) というスタイルに挑戦させるということが主なねらいです。あわせて、心の成長が著しい中学校2年生にとって、自分の夢を発表することが、自分探しや将来の自分の姿を描く機会になるとよい、という願いをもって指導しています。ですから、この Project は生徒にとってはもちろんのこと、彼らを指導する私にとっ

ても、生徒がアクティブに取り組む授業作りにおいては、教師が求めるレベルをあらかじめ決めておくことが大切です。具体的にイメージができていれば、input はどのようにするか、生徒がどこでつまずくか、それを解決する方法はどのように与えるかなどといった生徒への必要最小限の支援が明確になります。行き当たりばったりの指導や評価にならないように注意したいものです。以下に私の指導手順

の詳細をお示しいたします。

(1) 普段から段階的に書く指導をしておく

いきなり長い文章を書かせるのではなく、教科書の1文を変えてリライトしたり、教科書の続きを想像して書いたりするなど、具体性があり、語彙の拡充もそれほど必要なく、取り掛かりやすいものを与えて、文を書くことに普段から慣れさせるようにしています。また、いきなり多くを求めるのではなく、まずは1文を書くことからスタートし、3文、5文へと広げていきます。このときに、箇条書きのような単なる英文の羅列にならないように、意図的に接続詞を使わせるなどして、文脈をつくることを段階的に指導していくとよいでしょう。

(3) モデルの提示

モデルの提示では「これくらいの内容、分量などで仕上げてほしい」ということが分かるように教師やALTのモデルを示します。過去の生徒の作品があれば、それを示してもよいでしょう。また、教科書もよいモデルとなります。生徒は自分のスピーチ原稿を書くにあたり、教科書の本文やモデル文を何度も読み返します。特に、USE Readは自分のスピーチ作成の参考にするとという視点を持って生徒が主体的に読み返します。このように、生徒がさまざまな視点で繰り返し本文やモデル文を読んだり、参照したりする機会を意図的に作ることはとても有効です。

(2) 語彙の input

●職業カルタ

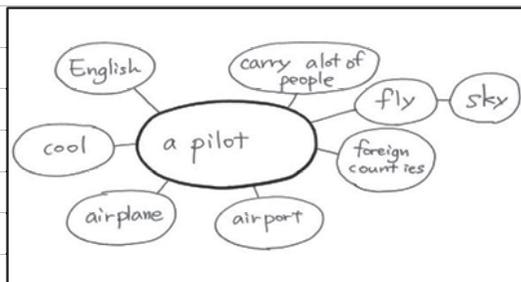
職業を示す写真やイラストを画用紙に印刷し、切ってカルタの札にします。教師が職業の名前を言って、生徒がそのカードを取る活動です。職業の名前をinputするとともに、My Dreamについてのスムーズな導入を図ります。生徒がある程度慣れてくると、今度は教師がヒントを出し、それを元に札をとるようにしていくことで、生徒の知識と語彙を広げることを目指します。

(例) Hints : hospital / help people / medicine /
Answer: (a doctor)

●職業連想クイズ(ブレインストーミング)

職業を一つ選び、下図のように職業からイメージする単語や文を思いつくまま書きます。最後に、自分が書いた語句をヒントに、何の職業について連想したことばかを友だちに当ててもらおうクイズを行います。

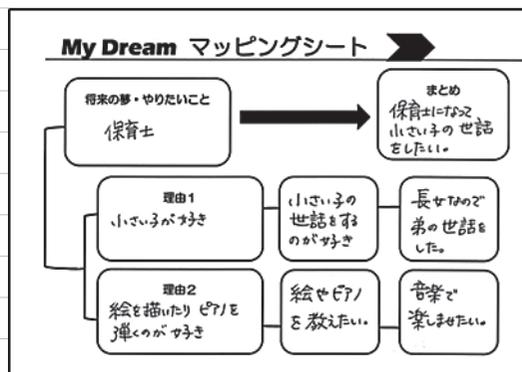
▼職業連想クイズの例



(4) アイディア出し

アイデア出しの段階では、教科書 p.82 の2のアイデアメモや、(2)で行った「職業連想クイズ」の原稿、マッピングを利用し、自分が将来つきたい職業とその理由など、内容についてアイデアを出す支援をします。

▼マッピングの例



(5) アウトラインの作成

ある程度アイデアが出そろったら、教科書のUSE ReadやProject 2のページを参考に、パラグラフ構成など、アウトラインを考えさせます。

(6) 英語にしやすい日本語の表現を考える

難しい日本語の表現を、なるべくシンプルで具体的な、英語にしやすい表現に改めるという段階を経て、実際に英語に直させるようにします。

(7) 英文作成

英語の作文では語順を意識し、和英辞典なども活用しながら、1日2文ずつ仕上げるなど、時間をうまく活用して作成させます。

(9) 英文の修正

フィードバックを元に自分なりに修正や校正をさせます。ここでは生徒の注意力が文法にフォーカスされるので、習った文法の確認や定着に効果的です。

(8) 英文のチェックとフィードバック

修正が必要な箇所については、教師が直接修正してもよいですし、実際に伝わるか、わかりにくいところはないか、といった視点を与え、生徒同士で読みあう機会を持たせるのも有効です。また、動詞の時制や代名詞の格の間違いなど、共通して間違える項目があれば、コードを与えておき、教師がそのコードを記すことで生徒自ら誤りを訂正できるようにするのも1つの方法です。

(10) 完成

完成させたら、絵や写真などを使い、自由にレイアウトして、ノートにまとめたり、教室に飾ったりします。また、ALTに見せて説明したり、発表をしたり、新聞にまとめるなどしてお互いに鑑賞させることで、生徒にとっては励みや刺激になったりして、よりよいものを作ろうとする動機づけにもなります。

▼間違い直しコード表

英作文間違い直しコード表		
番号	コード	内 容
1	S	スペリング(Spelling)を直しましょう。
2	L	大文字→小文字(letter)に直しましょう。
3	D	この語の選択が正しくないので、辞書(dictionary)で
4	T	動詞の時間(time)を直しましょう。時制表で確認しまし
5	2V	一つの文に動詞(Verb)が2つあります。
6	OV	動詞がありません。適切な動詞を記入しましょう。
7	原V	不定詞(to)/助動詞(can/mustなど)の後の動詞は原
8	SV	主語と動詞がありません。主語動詞表①/②で確認
9	VP	過去形(Past)の作り方が間違っています。不規則動詞
10	WO	語順を直しましょう。語順表で確認しましょう。
11		何を、文(Sentence)の構成要素が足りません。課題表で確認

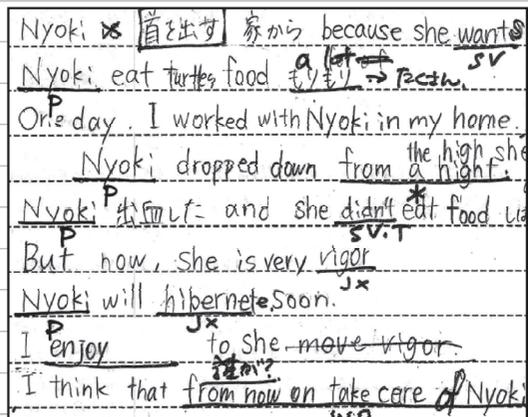
(1)~(2)は毎回の5分くらいの授業の時間を使い、常学習として一定期間行います。(4)~(6)はほとんどが日本語でできる活動になっており、英語の能力差に関係なく取り組めるので、長期休みの宿題としてもできます。(7)からの実際に英語に取り組む場面では、1日に2文ずつ継続して書かせて、それを授業中にチェックしたり、家庭学習で修正させたりするなど、ある程度長いスパンで指導すると、それほど負担もなく実施できます。

③ おわりに

英語というフィルターを通すと、日本語での作文よりも本音が出やすいようで、生徒はさまざまなことを表現しようとしています。だから英作文をさせると、単なる英語の授業を越えて、生徒が自分と向き合う時間になることがあります。My Dreamのような自分を表現する課題について「書く内容がない」「自分の将来を考えられない」という生徒を指導することは、英語の指導の枠を越えて、1人の人間として必要なことを考えさせたり、伝えたりすることのできる絶好の機会であり、そこに教育の真髄があるように感じます。英語という言葉を通して、生徒の心を開き、本音を語らせることができるのも英作文の指導の強みです。

【参考文献】
樋口忠彦・高橋一幸編著(2015)。「Q&A 中学英語指導法事典」教育出版。

▼生徒の訂正の例



Words Relationships

Concha Moreno García

(Tokyo University of Foreign Studies)

“Why do I forget the words so easily? I study vocabularies every unit, but when I need to use them, I can’t remember them at all. What can I do about it?” Every teacher has seen students who face this problem. How can we help them retain and actively use the words taught in classes?

Recent studies have shown that speakers don’t just remember the words one by one, but rather connect them with other vocabularies, and insert them into their own word-nets¹. In the word-nets, words are grouped together based on their relationships, such as paper-pen-eraser in coordination, or in phrases, short / long / curly / straight hair. The relationships can also be hierarchical, as in hypernym terms, furniture-table-chair, or in synonyms and antonyms, white-black, handsome-ugly, etc.

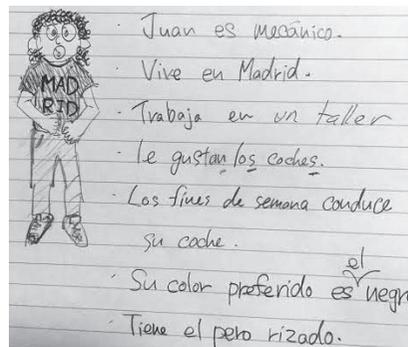
Another thing that teachers should make sure to teach vocabulary is the syntactical relationships between the words. For example, in Spanish, the verb *hablar* (to speak) is not used in the following way: *María me *habló que iba a venir.* (María *spoke me that she was coming.) The verb here should be *decir* (to say). In order to let students understand the difference, they have to be aware of complements and prepositions that are needed to establish the syntactical relationships. The verb *decir* is accompanied by *something* that we relay *to someone*, whereas *hablar* needs a topic we talk about *with someone*. This kinds of considerations should be gradually introduced to students in the classroom. In this way, students will be able to stock a “verb + preposition” bank, focusing on the meaning that each preposition adds to the verb, and how the meaning given by the preposition doesn’t change, even if we use different verbs. Soon, it becomes clear we *say, explain, teach*

something to someone and we *speak, work, go out with someone*.

To let students become capable of using vocabularies, teachers should also provide opportunities to use the words in situations or contexts that students are familiar with, and should be aware that without repetition, the words won’t transfer from short-term to long-term memory. I used the following activity to review vocabularies that goes with basic verbs like *ser* (to be), *estar* (to be), *haber / hay* (there is / are), which the students have already learned in the first semester, and to link those vocabularies to the contents of the second semester.

In pairs, draw a character and write the following information about him / her:

- What are their names? What’s their profession? Where are they from?
- What do they like to do in their free time?
- They have / wear ... (students often confuse these verbs)



In short, I encourage teachers to do these things: use vocabularies again and again in different contexts; make connections between new words and those already learned; and do activities that students can use them in many contexts as Austin says “do things with words”²

¹ A Spanish example is the collocations dictionary *Redes: diccionario combinatorio del español*. Ediciones SM (2004).

² Austin John L. 1962: *How to do Things with Words*.

平成 28 年度版 中学校英語教科書「NEW CROWN」に訂正がございます。以下の訂正につきましては、すべて文部科学省の許可のもと、平成 29 年度用の教科書では修正して供給いたします。先生方や生徒の皆さまにはご迷惑をおかけいたしますことを深くお詫び申し上げます。ご指導の際には、ご留意くださいますようお願い申し上げます。

箇所	原文	訂正文
Book 1		
p.70	側注 Words drive (s)	drive (s)
p.83	Idea Box [ペットについて] What kind of fish [cats / dogs] do you have?	What kind of fish [cat / dog] do you have?
p.85	手紙 Thank you very much for your letter. How are you? ____ I am well.	Thank you very much for your letter. How are you? I am well. ※改行なし
p.90	脚注 Words cannot	cannot
p.90	脚注 下線部の発音の強さ、長さに注意して言おう。	下線部の発音の強さに注意して言おう。
p.92	2nd Reading 1 (3) a. Players can carry the ball on their head.	Players can carry the ball on their heads.
p.116	1st Reading 選択肢 (c) the sports day	sports day
p.118	1 Step 3 表下〔 〕内 Buddha 大仏	big Buddha 大仏
p.147	9-2 日本語訳 いいえ、していません。	いいえ、しませんでした。
Book 2		
前見返し	右下 ペルー 写真下 ウルス族の人々は、	ウロス族の人々は、
p.17	側注 Words wonder (d)	wonder (ed)
p.28	側注 Words interested [intər'stɪd]	interested [intərə'stɪd]
p.30	写真下 ムニンツツジ	ムニンヒメツバキ
p.44	Q&A How can you find recipes of sushi?	How can you find recipes for sushi?
p.75	側注 Check A She (I. 7 2 つとも)	She (II. 7-8 3 つとも)
p.90	Q&A What does the paper, ink and writing show?	What do the paper, ink and writing show?
p.101	側注 Words dining [daɪnɪŋ] dining room [daɪnɪŋ ru:m]	dining [daɪnɪŋ] dining room [daɪnɪŋ ru:m]
p.105	側注 Check A the county (I. 11)	the country (I. 11)
Book 3		
p.28	側注 Words hear (聞く) の過去形	hear (聞く) の過去分詞形
p.54	Drill ㉔ beautiful pictures	has beautiful pictures
p.60	側注 Words Brazilian (s) [brɪzɪljən (z)]	Brazilian (s) [brəzɪljən (z)]
p.70	側注 What about it? ● ● ●	What about it? ● ● ●
p.95	2nd Reading (6) How did he think about English before? How does he think about it now?	What did he think about English before? What does he think about it now?

NEW CROWN

ENGLISH SERIES

New Edition

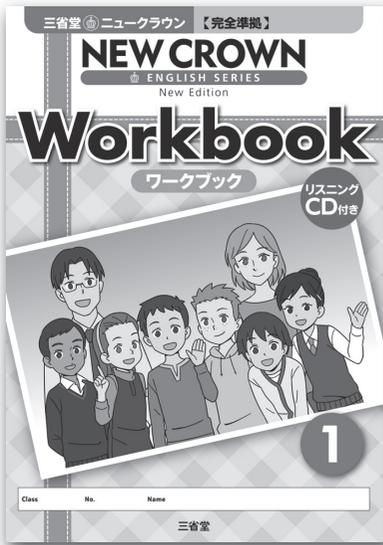
Workbook

ワークブック

1 2 3

- ① 1年 B5 136頁 定価 (本体 650円+税)
- ② 2年 B5 128頁 定価 (本体 650円+税)
- ③ 3年 B5 120頁 定価 (本体 650円+税)

リスニング
CD付き



- ★ セクションごとに文法・語句・表現などの基本問題を、レッスンごとにパラレルな読解問題を配置しています。
- ★ 題材に関する資料も充実しています。
- ★ 音声 CD には本文・基本文・新出語句の一部の音声を収録しています。

特長 1

生徒 1人に1枚 音声CD付き!

ワークでの学習に必要な音声を教科書から抜粋した CD です。



★★ 新出語句 (Words) を聞いて書く。

★★★ 本文 (GET) を聞いて書く。

★ 基本文 (POINT) を聞いて書く。

Lesson 8 GET Part 1

Words CDを聞いて、に英語を書き取る。()には右から意味を選んで記号を書こう。

(1) () (2) ()
 (3) () (4) ()
 (5) () (6) ()

A 読む B 作る
 C 飲む D (じっと) 聞く
 E 買う F 立っている

A 基本文の確認

CDを聞いて英語を書き取る。()には英文の意味を書こう。教科書p.108 文法のまとめ

Tom _____ math now.

右の絵に合うよう、()から適する語句を選ぼう。

(1) Miki is (wash / washes / washing) her face now. 

教科書の聞き取り CDを聞いて英語を書き取り、英文の意味を完成しよう。

① The students _____ language arts.
()

② This girl _____ .
()

③ That boy _____ a speech.
()

B 基本文の確認

日本語に合う英文になるように、()の語句を並べかえよう。

(1) ラジは映画を見ている。(Raj / a movie / is / watching) .

(2) ボブはバスケットボールを練習しています。(basketball / Bob / practicing / is) .

(3) メイリンは宿題をしています。(homework / is / her / Meiling / doing) .

特長 2

教科書の登場人物と いっしょに復習する。

絵を見て、「今～しています。」という英文を完成しよう。



cook



write



run

TEACHING
ENGLISH
NOW

35号

2017年
1月27日発行

編集・発行人：北口克彦

発行所：株式会社三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14

電話 (03) 3230-9411 (編集)・9412 (営業)

印刷：三省堂印刷株式会社

〒192-0032 東京都八王子市石川町 2951-9

電話 (042) 645-6111 (代)

編集後記

今回の特集では、英語の教科書には欠かせない「物語教材」に焦点をあてました。学生の頃、新しい教科書を手にしたら、国語でも英語でも率先して物語の単元を読んでいた記憶があります。心に響く題材探しをこれからも目指します。(ほ)

伝統と信頼の学習辞書『初クラ』が、さらにパワーアップしました!

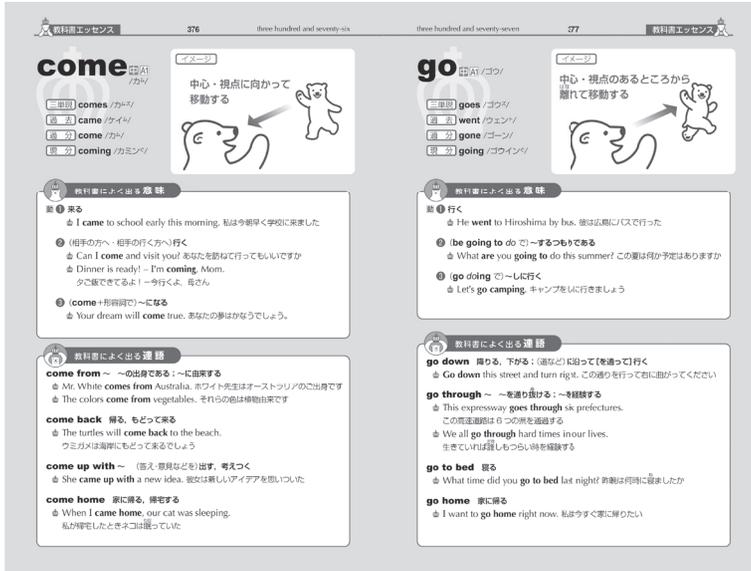
初級クラウン英和辞典 第13版

田島伸悟・三省堂編修所 [編] B6変型判 832ページ 〈2色刷〉 巻頭カラー〈4色刷〉 1,836円(本体価格1,700円+税)

—中学生の語彙力を高める新たな工夫を取り入れています—

教科書エッセンスページ 教科書の最重要部分を凝縮!

中学英語検定教科書6種類18冊を徹底分析し、そこから17の最重要動詞を抽出。教科書にランダムに出てくる多品詞・多義語も、全体像をまとめて見ることですっきりと復習。1つの教科書だけではカバーしきれないような用法にも、しっかりと目が行き届きます。



最重要動詞17

have take do get
come go look see
make give say
think know ask
want put find

教科書によく出る意味

- 各社の教科書によく出る語義と連語をまとめて掲載。
- 教科書の使用例に近い例文付き。

重要度を示す新ロゴマーク 語彙力の「穴」を効果的に埋める!

初級段階で覚えたい重要語には、科学的調査に基づいた2種類のロゴマークで、単語の重要度をわかりやすく示しました。優先順をつけた無駄のない単語学習に、そしてバランスの取れた語彙力強化に、ロゴが大いに役立ちます。

city  /siti スイティ/

 cities /sitiz スイティス/

① 市、都会、町: (the city で) 全市民。→

 →初級の前半(小学校から中学校前半)

 →初級の後半(中学校後半から高校前半)

CEFR-J^{®1}ロゴ:教科書に限らず、よく使われる初級の重要語を示しています。教科書には出にくいような初級の語(例:dirtyやfatなど)も含まれますので、教科書を補完するのに効果的です。

*1 外国語能力の世界基準であるCEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)を、日本の英語教育に適用したものです。この辞書では、CEFR-Jの語彙リストに示された語のうち、初級の学習に重要なA1・A2ランクの見出し語にロゴをつけています。

 中学必修語ロゴ:中学英語教科書を分析、合計すると約1270語となり、中学校で身につけるべき1200語の具体的な指針となります。高校入試にもよく出る単語です。

赤の  →6種類すべての教科書に出てくる語(必修語, 約620)
グレーの  →半数以上の教科書に出てくる語(準必修語, 約650)

初級クラウン和英辞典 第11版

田島伸悟・三省堂編修所 [編] B6変型判 640ページ 〈2色刷〉
巻頭カラー〈4色刷〉 1,836円(本体価格1,700円+税)

★自己表現に必要な語彙をたっぷり補充!

掲載数は2万1,200項目・1万9,200用例

★英文の核となる動詞には、よく使われる「基本形」を提示

★読んで楽しい、発信に役立つ充実のコラム

「日本紹介」「日英表現法のちがひ」「和製英語」などのコラムで、日本人が間違いやすい表現のポイントを解説。

『初クラ』にシロクマバージョンが仲間入り!



英和と和英を一冊にまとめた便利な合本に、シロクマをフィーチャーした新バージョンが仲間入りしました。思わず持ち歩きたくなる一冊です。



お値段、据え置き。中身の良さ、そのまま。デザイン、かわいく。

初級クラウン英和・和英辞典 第11版 シロクマ版

田島伸悟・三省堂編修所 [編]

B6変型判 1,472ページ 本体3,000円+税



進化するウェブサービスがついにスタート!

初クラのウェブサイトで音声that聞けるようになりました。
http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dicts/english/jcrwn_ej/vd/



今すぐチェック

聞きたい部分の吹き出しをクリックすると音声that流れます

音声内容

◎場面別日常英会話

英和辞典の巻頭にあるカラーページの英会話を聞くことができます。

◎発音のしかた

英和辞典の解説ページ「発音のしかた」にある単語の発音を聞くことができます。



※登録不要で、どなたでもご覧いただけます。

初級クラウンシリーズ

英和辞典 13版 1,700円+税

和英辞典 11版 1,700円+税

英和・和英辞典 11版 3,000円+税



前のページも見てね!

三省堂

<http://www.sanseido.co.jp/>

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14 TEL 03 (3230) 9411 (編集)・9412 (営業)

□大阪支社

〒530-0002 大阪市北区曾根崎新地 2-5-3

TEL 06 (6341) 2177

□名古屋支社

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F

TEL 052 (953) 9211

□九州支社

〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1

TEL 092 (531) 1531・1532

□札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F

TEL 011 (616) 8722